

ディーゴ ガイド



2026.10.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II
Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1〜3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあげます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

23:1 ダビデは日を重ねて年老い、その子ソロモンをイスラエルの王とした。
23:2 彼はまた、イスラエルのすべての長たち、祭司、レビ人を集めた。
23:3 レビ人のうち、三十歳以上の者を数えたところ、その男子の頭数は三万八千人であった。
23:4 「そのうち、【主】の宮の務めを指揮する者は二万四千人、つかさとさばき人は六千人、
23:5 四千人は門衛となり、四千人は私が賛美するために作った楽器を手にして、【主】を賛美する者となりなさい。」
23:6 ダビデは彼らを組に分けた。レビ族を、ゲルション、ケハテ、メラリに分け、
23:7 ゲルション人をラダンとシムイに分けた。
23:8 ラダンの子は、そのかしらエヒエル、ゼタム、ヨエルの三人。
23:9 シムイの子は、シェロミテ、ハジエル、ハランの三人。これらはラダンの一族のかしらであった。
23:10 シムイの子はまた、ヤハテ、ジザ、エウシュ、ベリア。これらの四人はシムイの子であった。
23:11 ヤハテはそのかしら、ジザはその次であった。エウシュとベリアは子を多く持たなかった。そこで父の家にいて、一つの役に就いた。
23:12 ケハテの子は、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人。
23:13 アムラムの子は、アロンとモーセ。アロンは、最も聖なるものを聖別するのに選り分けられた。それは、彼とその子たちが、と

こしえに【主】の前に香をたき、主に仕え、とこしえに主の御名によって祝福するためである。
23:14 神の人モーセの子孫は、レビ部族の者として名を呼ばれた。
23:15 モーセの子は、ゲルショムとエリエゼル。
23:16 ゲルショムの子は、かしらがシェベエル。
23:17 エリエゼルの子は、かしらがレハバヤ。エリエゼルにはほかに息子がいなかったが、レハバヤの子は非常に多かった。
23:18 イツハルの子は、かしらがシェロミテ。
23:19 ヘブロンの子は、かしらがエリヤ、次にアマルヤ、第三はヤハジエル、第四はエカムアム。
23:20 ウジエルの子は、かしらがミカ、次はイシヤ。
23:21 メラリの子は、マフリとムシ。マフリの子は、エルアザルとキシユ。
23:22 エルアザルは死に、彼には息子がなく娘だけであったので、親族であるキシユの子らが彼女たちを妻に迎えた。
23:23 ムシの子は、マフリ、エデル、エレモテの三人。
23:24 これは、それぞれ父祖の家に属するレビ族で二十歳以上になり、【主】の宮の奉仕の仕事をした者であり、一人ひとり名を数えられ、登録された一族のかしらたちであった。
23:25 ダビデがこう言ったからである。「イスラエルの神、【主】は、御民に安息を与え、とこしえまでもエルサレムに住まわれる。
23:26 レビ人も、幕屋を運んだり、奉仕に用

いるすべての器具を運んだりする必要はない。」

23:27 これらが、ダビデの最後のことにしたがって数えられた二十歳以上のレビ人の数である。

23:28 彼らの役目は、【主】の宮に仕えるアロンの子らを、庭、脇部屋、すべての聖なるものに関わるきよめ、また、神の宮での奉仕のわざをもって助けることである。

23:29 また、彼らは、並べ供えるパン、穀物のささげ物の小麦粉、種なしの薄焼きパン、平鍋、混ぜ合わせたもの、また各種の量や大きさを計ること、

23:30 朝ごとに、立って【主】をほめたたえ、賛美し、夕べにも同様にすること、
23:31 安息日、新月の祭り、および例祭ごとに、【主】に献げられるすべての全焼のささげ物が、【主】の前に絶えず、定められた数で献げられることについても責任を負う。

23:32 彼らは、【主】の宮の奉仕に関して、会見の天幕の任務、聖所の任務、同族アロンの子らの任務に当たった。

ダビデによる指導が記されています。このように礼拝は主の権威と協力が大切です。

①神のみこころは？

②どんな思いになりましたか？

③生き方にどう適用しますか？

④この世にあって何を実践しますか？



13日 火曜

歴代 I



24:1 アロンの子らの組分け。アロンの息子は、ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。
24:2 ナダブとアビフは父に先立って死に、彼らには子がいなかった。エルアザルとイタマルが祭司の務めに就いた。
24:3 ダビデは、エルアザルの子孫の一人ツァドク、およびイタマルの子孫の一人アヒメレクと協力して、アロンの子らをそれぞれの奉仕に任命し、それぞれの組に分けた。
24:4 エルアザルの子孫のほうに、イタマルの子孫よりも一族のかしらが多かったので、エルアザルの子孫は、父祖の家のかしらごとに十六組に、イタマルの子孫は、父祖の家ごとに八組に分けられた。
24:5 彼らはみな同じようにくじを引いて、それぞれの組に分かれた。聖所の組の長たち、神の組の長たちは、エルアザルの子孫の中にも、イタマルの子孫の中にもいたからである。
24:6 レビ人の出である書記、ネタンエルの子シュエマヤが、王と首長たち、祭司ツァドク、エブヤタルの子アヒメレク、祭司とレビ人の一族のかしらたちの前で、それらを書き記した。エルアザルから一つの父祖の家が選ばれ、イタマルからも一つ選ばれた。
24:7 第一のくじは、エホヤリブに当たった。第二はエダヤに、
24:8 第三はハリムに、第四はセオリムに、
24:9 第五はマルキヤに、第六はミヤミンに、
24:10 第七はハ・コツに、第八はアビヤに、
24:11 第九はヨシュアに、第十はシェカンヤに、
24:12 第十一はエルヤシブに、第十二はヤキムに、

24:13 第十三はフパに、第十四はエシェブアブに、
24:14 第十五はビルガに、第十六はイメルに、
24:15 第十七はヘジルに、第十八はハ・ピツェツに、
24:16 第十九はペタフヤに、第二十はエヘズケルに、
24:17 第二十一はヤキンに、第二十二はガムルに、
24:18 第二十三はデラヤに、第二十四はマアズヤに当たった。
24:19 これらが【主】の宮に入って奉仕するために登録された者たちで、彼らの先祖アロンが、イスラエルの神、【主】の命令にしたがって定めたとおりである。
24:20 残りのレビ族については、次のとおりである。アムラムの子孫ではシュバエル。シュバエルの子ではエフデヤ。
24:21 レハブヤについては、レハブヤの子では、そのかしらイシヤ。
24:22 イツハル人では、シェロミテ。シェロミテの子ではヤハテ。
24:23 ヘブロンの子は、そのかしらがエリヤ、第二はアマルヤ、第三はヤハジエル、第四はエカムム。
24:24 ウジエルの子孫はミカ。ミカの子ではシャミル。
24:25 ミカの兄弟はイシヤ。イシヤの子ではゼカリヤ。
24:26 メラルの子はマフリとムシ。彼の子アジャの子孫、
24:27 すなわち、メラルの子孫で、彼の子アジャから出た者は、ショハム、ザクル、イブリ。
24:28 マフリからは、エルアザル。彼には子

がいなかった。
24:29 キシュからは、キシュの子孫のエラフメル。
24:30 ムシの子は、マフリ、エデル、エリモテ。これが、それぞれその父祖の家に属するレビの子孫である。
24:31 彼らもまた、彼らの同族であるアロンの子らと全く同じように、ダビデ王、ツァドク、アヒメレク、祭司とレビ人の一族のかしらたちの前で、くじを引いた。一族では、かしらもその弟と全く同じであった。

くじのように偶然に見えるようなものにも「主の…定めた」とあります。見えない主の權威に気づいて、期待して受け入れましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 水曜

歴代 I



25:1 また、ダビデと軍の長たちは、アサフとヘマンとエドトンの子らを奉仕のために取り分け、堅琴と琴とシンバルに合わせて預言する者とした。仕事に就いた者の数は、その奉仕にしたがって次のとおりである。

25:2 アサフの子では、ザクル、ヨセフ、ネタンヤ、アサルエラ。これらはアサフの子で、王の指揮にしたがって預言するアサフの指揮下にあった。

25:3 エドトンについて。エドトンの子は、ゲダルヤ、ツェリ、エシャヤ、シムイ、ハシャブヤ、マティテヤの六人。堅琴に合わせて【主】をほめたたえ、賛美しながら預言する彼らの父エドトンの指揮下にあった。

25:4 ヘマンについて。ヘマンの子は、ブキヤ、マタンヤ、ウジエル、シェブエル、エリモテ、ハナンヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルティ、ロママティ・エゼル、ヨシュベカシャ、マロティ、ホティル、マハジオテ。

25:5 これらはみな、王の先見者ヘマンの子で、神のこぼえを通して王の角を高く上げる者たちであった。神はヘマンに息子十四人と娘三人を与えられた。

25:6 これらはみな、その父の指揮下にあつて、シンバル、琴、堅琴を手に、【主】の宮で歌を歌い、王の指揮下に神の宮の奉仕に当たる者たちである。アサフ、エドトン、ヘマン、25:7 彼ら、および、【主】にささげる歌の訓練を受け、みな達人であった彼らの同族の数は二百八十八人であった。

25:8 彼らは、下の者も上の者も、達人も弟子も、みな同じように任務のためのくじを引いた。

25:9 第一のくじは、アサフに属するヨセフに当たり、第二はゲダルヤに当たった。彼と兄弟たち、子たち、十二人。

25:10 第三はザクル、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:11 第四はイツェリ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:12 第五はネタンヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:13 第六はブキヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:14 第七はエサルエラ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:15 第八はエシャヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:16 第九はマタンヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:17 第十はシムイ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:18 第十一はアザルエル、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:19 第十二はハシャブヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:20 第十三はシュバエル、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:21 第十四はマティテヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:22 第十五はエリモテ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:23 第十六はハナンヤ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:24 第十七はヨシュベカシャ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:25 第十八はハナニ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:26 第十九はマロティ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:27 第二十はエリアタ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:28 第二十一はホティル、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:29 第二十二はギダルティ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:30 第二十三はマハジオテ、その子たち、兄弟たち、十二人。

25:31 第二十四はロママティ・エゼル、その子たち、兄弟たち、十二人に当たった。

「賛美しながら預言」とあります。賛美はみこころを宣言するからです。また聖霊が働かれますから礼拝の中でこそ主のみこころを求めましょう。
主の栄光を表わす、霊的な「達人」になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 木曜

歴代 I



26:1 門衛の組分けについて。コラ人ではアサフ族のコレの子メシェレムヤ。
26:2 メシェレムヤには子があつた。長男ゼカリヤ、次男エディアエル、三男ゼバデヤ、四男ヤテニエル、
26:3 五男エラム、六男ヨハナン、七男エルエホエナイ。
26:4 オベデ・エドムには子があつた。長男シェマヤ、次男エホザバデ、三男ヨアフ、四男サカル、五男ネタンエル、
26:5 六男アンミエル、七男イツサカル、八男ペウレタイ。神が彼を祝福されたからである。
26:6 彼の子シェマヤに子どもたちが生まれた。彼らは勇士だったので、その父の家を治める者となった。
26:7 シェマヤの子は、オテニ、レファエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟で勇者の、エリフとセマクヤ。
26:8 これらはみな、オベデ・エドムの子で、彼らとその子、兄弟たちは、その奉仕にふさわしい力のある勇敢な人であつた。オベデ・エドムに属する者は六十二人であつた。
26:9 メシェレムヤには子どもと兄弟たちがあつた。彼らは勇者で、十八人であつた。
26:10 メラリ族のホサには子があつた。そのかしらはシムリであつた。彼は長男ではなかったが、父が彼をかしらにしたのである。
26:11 第二はヒルキヤ、第三はテバルヤ、第四はゼカリヤであつた。ホサの子ども、兄弟たちは合計十三人であつた。
26:12 門衛のこれらの各組に対し、【主】の宮で仕える任務が、彼らのかしらごとに、彼らの兄弟たちと全く同じように割り当てられ

た。
26:13 こうして彼らは、下の者も上の者も等しく、その父祖の家ごとに、一つ一つの門についてくじを引いた。
26:14 東方のくじはシェレムヤに当たつた。彼の子で思慮深い助言者ゼカリヤのためにくじが引かれ、彼のくじは北方と出た。
26:15 オベデ・エドムには南方、彼の子らには倉、
26:16 シュピムとホサには西方、それに上り坂の大路のシャレケテ門が当たつた。見張りの組と組とは並び合つていた。
26:17 東方には六人のレビ人、北方には毎日四人、南方には毎日四人、倉には二人ずつ、
26:18 西方の前庭には、大路に四人、前庭に二人であつた。
26:19 以上が、コラ族とメラリ族の門衛の組分けである。

「門衛」とは、神様にむやみに近寄らないための役割です。かつてウザは自分の罪汚れを省みずに、神様の臨在に触れて、その罪ゆえに打たれました。そのようなことにならないために、門衛の存在は神の前に人が生きるために必要なのです。私たちが門衛になりましょう。神様の聖なることを表わし、人の罪汚れを思い起こさせ、さらには神様にさばかれたいための手立てを講じる人です。

そのような人には「下の者も上の者もひとしく」、差別はありません。主の栄光のために役割を持つ者は等しく、主の前に尊重されるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16日 金曜

歴代 I



26:20 レビ人のアヒヤは、神の宮の宝物倉および聖なるささげ物の宝物倉を管理した。
26:21 ゲルシオン族でラダンに属するラダンの子ら、ゲルシオン人ラダンに属する一族のかしらたち、すなわちエヒエル人、
26:22 エヒエル人の子孫、その兄弟ゼタムとヨエルは、【主】の宮の宝物倉を管理した。
26:23 アムラム人、イツハル人、ヘブロン人、ウジエル人については、
26:24 モーゼの子ゲルシヨムの子シェブエルが宝物倉のつかさであった。
26:25 彼の同族で、エリエゼルに属する者は、その子レハブヤ、その子エシャヤ、その子ヨラム、その子ジクリ、その子シエロミテであるが、
26:26 このシエロミテと彼の兄弟たちは、ダビデ王と一族のかしらたち、および、千人隊の長、百人隊の長たち、軍の長たちが聖別して献げた聖なるささげ物の、すべての宝物倉を管理した。
26:27 彼らは、戦いで得た分捕り物の一部を、【主】の宮を修理するために聖別した。
26:28 すべて予見者サムエル、キシユの子サウル、ネルの子アブネル、ツェルヤの子ヨアブが聖別した物、すなわち、すべての聖なるささげ物は、シエロミテとその兄弟たちに委ねられた。
26:29 イツハル人のうち、ケナンヤとその子たちは、イスラエルに関する外の仕事に就き、つかさやさばき人となった。
26:30 ヘブロン人のうち、ハシャブヤとその同族の者、すなわち勇者千七百人は、ヨルダン川より西のイスラエルの管理に当たり、

【主】に対する務めと王に対する奉仕のすべてを担った。

26:31 ヘブロン人のうち、エリヤは、その一族とその家系によればヘブロン人のかしらであった。ダビデの治世の第四十年に、彼らは調べられ、ギルアデのヤゼルで彼らの中に勇士たちが見つかった。

26:32 彼の同族の者たちは勇者であって、二千七百人いたが、一族のかしらたちであった。ダビデ王は彼らを、ルベン人、ガド人、マナセ人の半部族の上に任命し、すべて神に関わる事柄、王に関わる事柄に当たらせた。

「宝物倉」は大切です。主の栄光には勝利が伴い、勝利には「分捕り物」があるからです。それらを主のものとしなくてはなりません。私物化してはならないのです。私たちも、主の力で勝利したときには、その利得を主のものとしなくてはなりません。感謝の献げものをする、主に栄光を帰することをしましょう。

主が指導者であります。つかさが任命されました。秩序ある協力関係ができるためです。この場合、指導者がまず主に従う者でなくてはなりません。主の前に謙遜な者が人を指導できるのです。仕事、子育て、友達関係でも同じでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17日 土曜

歴代 I



27:1 イスラエルの子ら、すなわち、一族のかしらたち、千人隊の長、百人隊の長たち、および彼らのつかさたちは王に仕え、一年のすべての月を通して、月ごとの交代制により各分団のすべてのことに当たった。その人数は一つの分団が二万四千人であった。

27:2 第一の月、第一分団を率いるのは、ザブディエルの子ヤショブアム。彼の分団は二万四千人。

27:3 彼はペレツの子孫の一人で、第一の月を受け持つ軍の長たちすべてのかしらであった。

27:4 第二の月、分団を率いるのは、アホアハ人ドダイ。彼の分団には、長であるミクロテがいた。彼の分団は二万四千人。

27:5 第三の月、第三軍団の長は祭司エホヤダの子ベナヤ。彼がかしらであった。彼の分団は二万四千人。

27:6 彼は、あの三十人の勇士の一人、三十人の長のベナヤである。彼の分団には、その子アミザバデがいた。

27:7 第四の月、第四団は、ヨアブの兄弟アサエル。その子ゼバデヤが彼の跡を継いだ。彼の分団は二万四千人。

27:8 第五の月、第五団は、長はイズラフ人シャムフテ。彼の分団は二万四千人。

27:9 第六の月、第六団は、テコア人イケシュの子イラ。彼の分団は二万四千人。

27:10 第七の月、第七団は、エフライム族の出であるペロニ人ヘレツ。彼の分団は二万四千人。

27:11 第八の月、第八団は、ゼラフ人に属するフシャ人シベカイ。彼の分団は二万四千人。

27:12 第九の月、第九団は、ベニヤミン人に

属するアナトテ人アビエゼル。彼の分団は二万四千人。

27:13 第十の月、第十団は、ゼラフ人に属するネトファ人マフライ。彼の分団は二万四千人。

27:14 第十一の月、第十一団は、エフライム族の出であるピルアトン人ベナヤ。彼の分団は二万四千人。

27:15 第十二の月、第十二団は、オテニエルに属するネトファ人ヘルダイ。彼の分団は二万四千人。

27:16 なお、イスラエルの各部族の長は、ルベン人では、ジクリの子エリエゼルが長。シメオン人ではマアカの子シェファテヤ。

27:17 レビではケムエルの子ハシャブヤ。アロンではツアドク。

27:18 ユダではダビデの兄弟の一人エリフ。イッサカルではミカエルの子オムリ。

27:19 ゼブルンではオバデヤの子イシュマヤ。ナフタリではアズリエルの子エリモテ。

27:20 エフライム族ではアザズヤの子ホセア。マナセの半部族ではベダヤの子ヨエル。

27:21 ギルアデのマナセの半部族ではゼカリヤの子イド。ベニヤミンではアブネルの子ヤアシエル。

27:22 ダンではエロハムの子アザルエル。これらがイスラエル各部族の長たちであった。

27:23 ダビデは二十歳以下の者は数に入れなかった。【主】がイスラエルを天の星のように多くすると言われたからである。

27:24 ツエルヤの子ヨアブが数え始めたが、終わらなかった。しかし、このことで御怒りがイスラエルの上に下った。それでその数はダビデ王の年代記の統計には載らなかった。

イスラエルは主の民であり、主が守るのですが、このようにその形態が整えられていたことが分ります。それぞれに職分があり、責任を果たし、全体で機能したのです。現代の神の民である教会も同じです。教会全体を理解しつつ、自分に与えられた職分を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 18日 日曜

歴代 I

27:25 王の宝物倉をつかさどったのは、アディエルの子アズマウエテ。畑地、町々、村々、それぞれの塔にある宝物倉を管理したのは、ウジヤの子ヨナタン。

27:26 土地を耕して畑仕事をやる者たちを管理したのは、ケルブの子エズリ。

27:27 ぶどう畑を管理したのは、ラマ人シムイ。酒蔵用のぶどう畑の産物を管理したのは、シェファム人ザブディ。

27:28 シェフェラにあるオリーブの木といちじく桑の木を管理したのは、ゲデル人バアル・ハナン。油の倉を管理したのはヨアシュ。

27:29 シャロンで飼われる牛の群れを管理したのは、シャロン人シルタイ。谷にいる牛の群れを管理したのは、アデライの子シャファテ。

27:30 らくだを管理したのは、イシュマエル人オビル。雌ろばを管理したのは、メロノテ人エフデヤ。

27:31 羊の群れを管理したのは、ハガル人やジズ。これらはみな、ダビデ王の所有する財産の長官であった。

27:32 ダビデのおじヨナタンは助言者であり、洞察力のある人で、彼は書記でもあった。ハクモニの子エヒエルは王の子らとともにいた。

27:33 アヒトフェルは王の助言者で、アルキ人フシャイは王の友であった。

27:34 アヒトフェルの跡を継いだのは、ベナヤの子エホヤダとエブヤタル。王の軍の長はヨアブであった。

ここにあるアヒトフェルとヨアブは、後にダビデに反逆した者たちです。ここに人間の現実があります。ダビデにとっては後のことなどわかりませんが



ら、彼らを任命したことはしょうがないことです。私たちにとっても、常に人が味方とは限りません。しかしそれも現実ですから、自分を責めたり後悔することは建設的ではありません。主からの解決をいただきつつ前に進むのです。雄雄しくありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

